

告示	番号	19	悪性新生物
	疾病名	上咽頭癌	

上咽頭癌

じょういんとうがん

概要・定義

おおよそ硬口蓋と軟口蓋の接合部の高さから頭蓋底までの上咽頭に発生する癌腫を指す。

症状

頸部リンパ節腫脹や鼻閉、鼻出血、耳閉、難聴、さらには視力障害や顔面神経麻痺などの脳神経症状により気づかれることが多い。

治療

上咽頭癌は組織学的に未分化もしくは低分化で早期から転移をきたしやすく、確定診断時にはほとんどの場合で外科的切除が困難である。但し、一般的に化学療法や放射線療法に高感受性である。

欧米の標準治療はシスプラチン同時併用放射線治療+シスプラチンと5FU プースト全身化学療法である。本邦では、シスプラチン+5FU 全身

化学療法のインターバルを利用して放射線を照射する交替療法に加えて、近年ではシスプラチン、5FU にドセタキセルを加えた TPF 療法を導入化学療法として施行する施設、さらには同時併用で施行する施設がある。放射線治療はリニアックが一般的であるが、強度変調放射線治療 (IMRT) やトモセラピーなどの新機種による治療が普及しつつある。局所制御率としては同程度である。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_5_61.html